



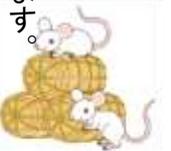
## 謹賀新年

本年も宜しくお願い致します。



### 新年の「あいさつ」

会長 西村 正



あけましておめでとうございます。  
輝かしい新年を迎え、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。  
昨年を振り返ってみますと、養父市一斉避難訓練における宿南小学校での防災訓練には、予想を大幅に上回る二百四十名の参加者があり有意義な訓練となりました。総合運動会も多くの方の参加があり大いに盛り上がり、文化祭では芸能発表会にたくさんのお出演者があり楽しませていただきました。年末のクリスマス会では営農組合から提供された新米三種の食味会が企画され、老若男女八十数名が集まり賑やかに開催されました。これら恒例の行事の他に新しい取り組みがスタートしました。

まず、養父市と宿南地区自治協議会との間で青谿書院の管理業務委託契約を結び、十月から青谿書院の維持管理の取り組みを始めました。冬期を除き土曜日・日曜日は管理人が常駐して案内します。資料館の中も見学できます。三ヶ月経過しましたが、札幌市、富山市など遠方から見える方もあり驚いています。一方、地元の方の見学が少なく、残念に思います。春になって暖かくなったらぜひ、足をお運び下さい。お待ちしております。

また、戦略的移住推進モデル事業が七月にスタートしました。宿南地区を持続可能な地域にするため、移住・定住推進計画を策定し、実践し、移住者・定住者を獲得しようという事業です。そのためには、住める住宅、空き家の確保は重要な課題ですが、その他に、宿南が魅力ある地域であるか、誇れるふるさとであるか、選択されるにふさわしい地区であるか、も重要な問題です。宿南地区の「未来を変える」「少子化対策」を考えると、フューチャーセッション（未来づくり会議）を三回実施しました。

その結果、自分たちのやりたいこと（プロジェクト）の中から四つを選び、先行して推進、展開していくことを決めました。その内二つのプロジェクトチームは十二月に会議を持ちスタートしました。残りの二つのチームも一月にスタートします。今はまだ会議のメンバーの中で検討しているところですが、広く地区の方にメンバー募集や協力要請など声がかかることと思います。その節にはよろしく願います。

宿南地区では少子高齢化が顕著となっており最も危惧するところです。『生き生きと安心して暮らせる住みよい地域』にするために、他人事としないで、自分には何ができるかを考え、みんなで知恵を出しあい、みんなで協力して、みんなの力を結集していかねばなりません。皆様の一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。



## 『青谿書院塾』



12月1日(日)宿南ふれあい倶楽部ホールで45人参加で開催されました。池田草庵先生に学ぶ会の高木俊雄さんの「池田草庵を地域に活かす」報告の後、東洋大学名誉教授 吉田公平さんに「青谿書院は読書の処なり」と題して講演を聞きました。



## クリスマス会



12月22日(日)多世代88人参加で開催されました。宿南営農組合生産3種類のお米で食味会が行なわれました。ビンゴゲームを楽しみ、花水木の会の会員さんの手作りうどん、ばら寿司(もちろん宿南営農組合産米)をおいしくいただき、ケーキ、ジュースで団欒の時間を過ごしました。



## お知らせ



2月22日(土)ボウリング大会(19時スタート)  
豊岡アーバンボウル

## 草庵先生紹介



日記 16



養老会では養蚕のことなども話題になった

宮崎和夫さん作

お年寄りを招いて開く養老会は、安政2(1855)年からはほとんど毎年開かれていった。

「本日は、休講にする。朝、塾生に掃除をさせる。この日は、養老会をして村人が集まり一日にぎやかに過ぎる(後略)(安政3年3月22日)

これは、2回目の養老会を催した日の日記である。この年の養老会は、書院の講義は休講にして、塾生に掃除をさせて村人を迎え入れている。この日は3月22日だが、現在の太陽暦でいえば4月下旬で、気候の良い時である。養老会はこの気候のよい時期を選んで開かれ、時には書院の周りに咲く桜をめでながら行われたこともあった。

宴会の後、みんなで心置きなく語り合うことも養老会の楽しみの一つであった。どんなことが、お年寄りの間で話題になったのか。

「それは自分の仕事、今までやって来た仕事のことなどで、桑や麻、それに機織りの事などがよく話題になっていた。それを側で聞いていると、本当に純朴で誠実なお年寄りの人柄が出てくる話で、今の若い人にはとても及ばないようなものであった。こういうことを聞いて、若い人がお年寄りに学ぶ風習が広まっていくことを願う」(「養老会記」より)

お年寄りを敬い、いたわり、その人柄、知恵に学んでいこうとする池田草庵の願いがよくわかる。現在の国民の祝日である「敬老の日」は、「老人を敬愛し長寿を祝う」ことを趣旨として昭和41(1966)年に制定された。しかし、ここ青谿書院では、江戸時代末期に、すでにお年寄りを敬い、お年寄りに学ぶ集いが開かれていたのだ。

その後も養老会は続けられていった。次のようなこともあった。

「今日、村人相集まって養老会をする。一日中にぎやか。村人が、入門していた横田君兄弟(生野代官の子弟)を呼んで酒食を勧めた。そんなこともあって大酔いして早く就寝。この日も読書できなかった」(慶応2(1866)年4月4日)

幕府の役人の息子たちと飲食を共にして、老人たちも大いに盛り上がったのだろう。

(提供 朝日新聞社)